

1. ごあいさつ

暖冬と言われた今年ですが、急に寒波がきました。雪で大変な方もいると思います。いかがお過ごしでしょうか。株式会社アイリンクの照井です。

雪山登山は厳しい北アルプスのイメージです。でも伊吹山は標高 1300m でも冬山登山にスキーまで楽しめます。スキーに滑り止め（シール）を貼って登り、山頂でシールを外して滑ることができます。

山頂の景色は素晴らしく、登りと下り別々の楽しみがありました。でも雪崩の危険と背中合わせなので、二度行って、びびって止めました。そういうところはヘタレです。(笑)



冬の伊吹山
(スキー登山で撮影)

2. 人口減少社会とこれから起こる変化

モノづくり通信第28号は、人口減少社会についてです。

(1) 人口減少の現実

世界で最も高齢化の進んでいる日本は、現在の人口1億2700万人が、2050年には9,700万人、2100年には5,000万人にまで低下すると予測されます。出生率は、1975年に人口が維持できる限界(人口置換水準)2.07を下回りました。1989年に1.57まで低下し、社会に衝撃を与えました。2014年は1.42となっています。



図1 合計特殊出生率と出生数

出生率と人口の関係は図2のようになります。出生率(合計特殊出生率)が現状と同じ1.34程度(中位推計)の場合、2110年に人口は4,286万人になります。出生率が1.1まで低下した低位推計では2110年に人口は約3,000万人、逆に出生率が1.6にまで回復した高位推計では人口は6,000万人、出生率が人口置換水準2.07まで回復した場合、9,136万人になります。

15歳～64歳までの生産年齢人口は、ピークの1995年には8,717万人でした。しかし2015年には7,682万人と1,035万人も減少しています。2030年には6,773万人(2015年に対し-909万人)、2050年には5,001万人(2015年に対し-2,681万人)まで減少します。その結果、優秀な人材は優良企業に集中し、知名度の低い企業は今以上に人材の質の低下に悩むことが予測されます。

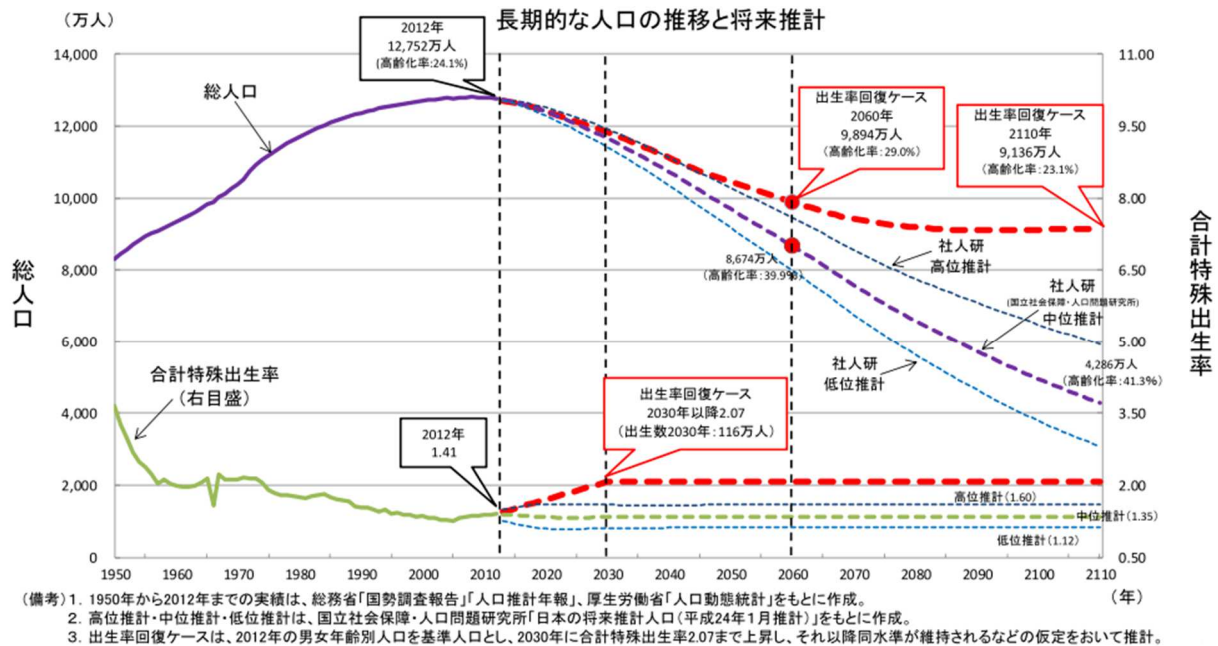


図2 超長期的な人口の推移と将来推計

(2) 地方の課題と増田レポートの衝撃

増田レポートとは、2014年5月に元岩手県知事で元総務大臣の増田寛也氏が、「日本創生会議」で発表した報告書です。

2010年の国勢調査から推計した結果、2040年には896の自治体が消滅する可能性が高いことがわかり、全国の自治体関係者に衝撃が走りました。

原因は、東京への一極集中が続き、地方の若者が移動するためです。東京圏は1960年代から一貫して人が集まり、戦後からの累計では1,147万人の若者が地方から東京圏へ移動しています。

しかし東京の出生率は1.13と、全国平均の1.43より大幅に低く、若者が来ても子供は増えず、東京の高齢化は進行しています。地方は若者が減り、今後は高齢者も減少し、人口は大幅に縮小します。

そして必要な行政サービスを提供できる下限、人口1万人を割り、自治体が存続できなくなります。

増田レポートの目新しい点は、今までは日本全体の人口減少、少子化が議論されてきましたが、地方に目を向けたことと、その結果、より深刻な問題があることを提言した点です。

出産・子育てに関する東京の問題は以下の点です。

- 1) 住居、通勤、保育などの環境が地方より悪い。
- 2) 出産に伴い退職せざるを得ないケースが多い。
- 3) 晩婚化が進み、30代後半で一人目を出産すると年齢的に2人目以降をあきらめる。
- 4) 教育費が高い。

(3) 政府の「まち・しごと・創成本部」

増田レポートを受けて、政府は「まち・しごと・創成本部」を創設し、「地方創生」と「少子化対策」に取り組んでいます。主なものは、

- 地方移住の推進
- 若者の正社員化促進
- 結婚・出産・子育て支援

《目標1：2025年までに合計特殊出生率=1.8》

《目標2：2034年までに合計特殊出生率=2.1》

- 小さな拠点形成（都市のコンパクト化）

政府の政策案はやや抽象的なので、増田氏の著作から提言をみますと以下の8点です。

- 1) ITの駆使とサービス産業の生産性向上により、地方で雇用を創出し、若者の働く場を増やす。
- 2) 世界的ローカルブランド「匠の技」を創出し、地方のものづくりを海外に発信する。地域の中企業の技術をブランド化し海外と取引する。

- 3) 地方の都市にユニークな特徴を持たせ、病院中心の街やロケの街など街をブランド化(世界オンリーワン)し、人を呼び込む。
 - 4) 地方の暮らしやすさを発信し、都会と異なる価値観を提供する。
 - 5) 圏内2地域居住でIターン・Uターンの間口を広げる。両親が山間地に住んでいる人に、まずその近くの中核都市に移住してもらい、週末に両親のもとに通えるような環境を作る。
 - 8) スーパー広域合併により、地方に30万人規模の中核都市を重点的に整備し、人や都市機能を集約する。(コンパクトシティ構想)
- 6) アクティブシニア CCRC (Continuing Care Retirement Community)。60代の元気なシニアの地方への移住を推進する。
 - 7) 3人目以降の子供に現金給付
問題は、今までの地方行政と地方財政の失敗にあります。その解決には二つの課題があります。
 - 内需拡大、持ち家政策推進のため、郊外の住宅地が無秩序に広がった。しかし人口減少社会に入り人の密度が減少すると、行政サービスのコスト負担が過大になる。
 - 内需拡大のため、地方債を発行し、ハコモノやインフラ整備により財政が肥大化し危機的になった。中核都市に人を集中することで立て直す。

(5) 人材獲得競争の激化

若者の数が減り、しかも優秀な人材は東京の大学に進学します。知名度の低い地方の企業にとって、優秀

な人材の獲得はますます困難になり、人材の獲得競争が激化すると予測されます。

3. モノづくり温故知新 組織のリーダー「上司の思考停止と特攻拒否した指揮官」

第二次世界大戦では、特攻により3,848名の若い命が失われました。この十死零生の自殺戦法には、海軍内でも異論があったようですが、悪化する戦況に「やむを得ない」雰囲気もありました。

その中で、最後まで特攻を拒否した指揮官がいました。芙蓉部隊の美濃部少佐です。彼は水上偵察機の乗組員が夜間飛行能力が高いことに着目し、特攻でなく、夜間の通常攻撃を主張しました。

『特攻拒否の異色集団彗星夜襲隊』渡辺洋二著に以下のように書かれています。

<以下一部引用>

航空参謀「次期沖繩作戦には、教育部隊を閉鎖して練習機を含め全員特攻編成とします。訓練に使用する燃料は一人あて月15時間しかないのです。」

美濃部「フィリピンでは敵は300機の直衛戦闘機を配備しました。こんども同じでしょう。劣速の練習機まで駆り出しても、十重二十重のグラマンの防御陣を突破することは不可能です。特攻のかけ声ばかりでは勝てるとは思えません」

航空参謀「必死尽忠の士が空をおおって進撃するとき、何者がこれをさえぎるか！第一線の少壮士官がなにを言うか！」中略

美濃部「ここに居合わす方々は指揮官、幕僚であって、みずから突入する人がいません。必死尽忠と言葉は勇ましいことをおっしゃるが、敵の弾幕をどれだけくぐったのです？失礼ながら私は、回数だけでも皆さんの誰よりも多く突入してきました。

今の戦局にあなた方指揮官みずから死を賭しておいでなのか？」

「飛行機の不足を特攻戦法の理由の一つにあげておられるが、先の機動部隊来襲のおり、分散擬装を怠って列線に並べたまま、いたずらに焼かれた部隊が多いではないですか。また、燃料不足で訓練が思うにまかせず、搭乗員の練度低下を理由の一つにしておいでだが、指導上の創意工夫が足りないのではないですか。私のところでは、飛行時間200時間の零戦操縦員も、みな夜間洋上進撃が可能です。全員が死を覚悟で教育し、教育されれば、敵戦闘機群のなかにあえなくおとされるようなことなく、敵に肉薄し死出の旅路を飾れます」

中略

美濃部「劣速の練習機が昼間に何千機進撃しようと、グラマンにかかってはバッタのごとく落とされます。2000機の練習機を特攻に駆り出す前に赤トンボまで出して成算があるというのなら、ここにいらっしゃる方々が、それに乗って攻撃してみるといいでしょう。私が零戦一機で全部、撃ち落としてみせます！」

<引用終わり>



図3 美濃部少佐

美濃部少佐は、隊員に昼夜逆転生活をさせ、同僚の訓練も見学させてイメージトレーニングを行い、飛べない時は座学を行い、航法、地理、機材を学ぶ、整備班のスキルを高め機体の故障を防ぐ、飛行場を偽装するなど、その時点でできる限りのことに取組みました。

そして芙蓉部隊は、終戦の前日まで述べ630機が出撃し多大な戦果をあげました。対して損害は、47機でした。しかも終戦時点で、まだ50機が戦える状態でした。

今、大企業の不祥事など組織の問題が次々と起きています。自分は「やむを得ない」雰囲気の中で「美濃部少佐のような意見を言うことができるだろうか」自問しています。

戦後、美濃部少佐は特攻に反対した指揮官としてマスコミに祭り上げられそうになりましたが、沈黙を守りました。私的に刊行された回想録の中でこう述べています。

「戦後よく特攻戦法を批判する人がいます。それは戦いの勝ち負けを度外視した、戦後の迎合的統率理念にすぎません。当時の軍籍に身を置いた者には、負けてよい戦法は論外と言わねばなりません。私は不可能を可能とすべき代案なきかぎり、特攻またやむをえず、と今でも考えています。戦いのきびしさは、ヒューマンイズムで批判できるほど生易しいものではありません」

参考 『特攻拒否の異色集団彗星夜襲隊』
渡辺洋二著 光人社 NF 文庫

4. 未来戦略ワークショップ「人口減少社会とこれから起こる変化」

経営環境の変化や経営事例などを学ぶ勉強会「未来戦略ワークショップ」2月は「人口減少社会とこれから起こる変化」人口減少が地方に与える影響と増田レポートが目指す日本について学びます。この勉強会はどなたでも参加できます。詳細は以下にあります。

<http://ilink-corp.co.jp/1669.html>

日時 2月21日(日) 9:30~12:00

場所 刈谷市総合文化センター アイリス
(中央生涯学習センター) 403 研修室
刈谷駅南口 徒歩3分

参加費 500円

前日までに、FAX、電話(0564-55-5661)

又はメール(terui@ilink-corp.co.jp)でお願いします。

未来戦略ワークショップ参加申し込み FAX 0564-52-5364

会社名 _____ **お名前** _____

TEL _____ **FAX** _____

6. 編集後記

美濃部氏は愛知県豊田市に生まれ、戦後は航空自衛隊で後輩を育成した後、(株)デンソーで教育を担当されました。元デンソー技研センターの川澄氏は、在職中に美濃部氏と同じ職場だったことがあり、川澄氏から美濃部氏のことを伺いました。美濃部氏はそのような逸話を感じさせない穏やかな方だったそうです。ただ、部下が失敗した時、部下でなくその上司に対して「なぜ、そのような仕事のさせ方をしたのか?」と叱ったそうです。

本ニュースレターが不要な方はお手数ですが下記通信欄に、お名前又は社名と「不要」とご記入通信欄

の上、FAXして頂くか、メールにて不要とお知らせください。

最後まで読んで頂きありがとうございました。

株式会社アイリンク 代表取締役 照井清一

〒444-0202 愛知県岡崎市宮地町馬場 17-1

TEL 0564-55-5661 FAX 0564-52-5364

URL : <http://www.spiral.ilink-corp.co.jp>

Email: terui@ilink-corp.co.jp

Facebook : <https://www.facebook.com/se.terui>

メルマガ

<http://spiral.ilink-corp.co.jp/malmag.html>

